拠点商業市街地の景観形成基準に対する措置状況説明書（建築物の建築等）

|  |  |
| --- | --- |
| 当該行為における景観形成に関する考え方 | |
| 記載欄 | |
| (1) 配置 | |  |
|  | 道路などの公共空間と連続したオープンスペースの確保など、公共空間との関係に配慮する。 |
| 記載欄 |
| 壁面の位置の連続性や適切な隣棟間隔の確保など、周辺の街並みに配慮する。 |
| 記載欄 |
|  | 敷地内に歴史的な遺構や残すべき自然などがある場合は、これを活かした建築物の配置とする。  欄 |
| 記載欄 |
|  | 隣接する建築物の壁面の位置等を考慮する。特にアーケードに面する場合は壁面の連続を図る。 |
| 記載欄 |
|  | 大規模な敷地では、通り抜け通路や広場を設けるなど、歩行者の動線に配慮した配置とする。 |
| 記載欄 |
|  | 車両の出入口は、既存の歩道やオープンスペースなどに配慮して配置する。 |
| 記載欄 |
| (2) 高さ・規模 | |
|  | 周辺の主要な眺望点（道路、河川、公園、橋梁、鉄道など）からの見え方を検討し、高さは、周辺  の建築物群のスカイラインとの調和を図る。 |
| 記載欄 |
|  | 住居系の建築物と隣接する場合は、分節したり高層部を後退させるなどし、圧迫感の軽減に配慮  する。 |
| 記載欄 |
| (3) 形態・意匠・色彩 | |
|  | 形態・意匠は建築物全体のバランスだけでなく周辺建築物等との調和を図る。 |  |
| 記載欄 |
|  | 色彩は色彩基準に適合するとともに、商業業務地の一体性や連続性に配慮する。  欄 |
| 記載欄 |
|  | 屋根・屋上に設備等がある場合は、建築物と一体的に計画するなど周囲からの見え方に配慮する。 |
| 記載欄 |
|  | 建築物に附帯する構造物や設備等は、建築物本体との調和を図る。 |
| 記載欄 |
|  | 店舗が連続する通りに面する場合は、低層部は店舗や開口部を設けるなど、商業地のにぎわいを  損ねないよう配慮する。 |
| 記載欄 |
|  | アーケードに面する場合は、通りの統一感に配慮する。 |
| 記載欄 |
| (4) 公開空地・外構・緑化 | |
|  | 隣接するオープンスペースとの連続性を確保する。 |
| 記載欄 |
|  | 敷地内はできる限り緑化を図り、周辺の緑と連続させる。また、屋上や壁面、接道部などの緑化  を積極的に行う。  欄 |
| 記載欄 |
|  | 緑化に当たっては、樹種の選定に配慮し、街路樹や周辺の景観との調和を図るとともに植物の良好  な生育が可能となるよう、植栽地盤を工夫する。 |
| 記載欄 |
|  | 住宅地の近くでは過度な照明は控えたり、光の色彩や光り方を工夫するなど、周囲の環境に配慮した  照明計画とする。 |
| 記載欄 |
|  | 外構計画は、敷地内のデザインのみを捉えるのではなく、隣接する敷地や道路など、周辺の街並み  と調和を図った色調や素材とする。 |
| 記載欄 |
|  | 住居系の建築物と隣接する場合は、境界部の緑化を積極的に行う。 |
| 記載欄 |

　上記以外で特に景観に配慮した事項

|  |  |
| --- | --- |
| 記載欄 |  |